

(第 129 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2022 年 5 月 10 日 (火)	出席者 敬称略	山崎博・持田憲秋・猪股勲・宮本公明・ 神田稔久
時間	14:00~17:00		
場所			
資料	神奈川県立歴史博物館 (リーフレット)		

議題

見学会
 「横浜はじめてものがたり」
 ー開港の地・横浜を起源とするものを中心に見学ー

吉田橋関門跡⇒鉄の橋 (最初のトラス構造の橋) (吉田橋) ⇒馬車道通 (近代街路樹発祥の地 牛馬飲水槽 アイスクリーム発祥の地) ⇒
 神奈川県立歴史博物館を見学⇒
 本町通り (旧富士銀行 旧銀行協会 旧三菱銀行 旧三井銀行 開港記念館 横浜町会所跡 岡倉天心誕生の地 神奈川運上所跡 (神奈川県庁) 外国郵便創業の局 電信事業発祥の地) ⇒大棧橋通り (消防救急発祥の地) ⇒日本大通り⇒横浜公園 (最古の西洋式庭園) ⇒
 JR桜木町駅 (鉄道創業の地 110型機関車見学)



吉田橋関門跡



吉田橋 (鉄の橋)



近代街路樹発祥の地



牛馬飲水槽



アイスクリーム発祥の地



神奈川県立歴史博物館（旧横浜正金銀行本店）



開港記念館 左 横浜町会所跡



右 岡倉天心生誕之地



神奈川県庁（神奈川運上所跡）



電信発祥の地



消防救急発祥の地



110 型蒸気機関車

参加者からのコメント

楽しい企画をありがとうございました。馬車道というのは繁華街と思っていましたが、いろいろな「〇〇発祥の地」があったり、昔の銀行の壮麗な建物が保存されていたりで、横浜が文化の最先端を行っていたということを実感できました。もちろん、繁華街の食事どころも昔からの歴史を感じさせる店があちこちにあって今度は家族で来てゆっくり食事をするのもいいかなと思いました。また、県立歴史博物館では横浜近郊（鶴見川沿い）だけでなく、鎌倉、小田原、足柄、箱根など県西部も解説されていて、3方を山にかこまれた鎌倉がいかに天然の要塞であったかや、北条氏からのこの地方の変遷も知ることができました。天候がいかに5月の過ごしやすい陽気で、散歩をしながら横浜と神奈川県を知るよい機会だったと感じました。（宮本）

晴天に恵まれ、楽しい一日を過ごしました。山下公園、大棧橋、みなとみらい、中華街、横浜スタジアムなど、良く訪れている場所の隣接地に、横浜開港にまつわる幕末・明治初期の多くの歴史的な建造物や記念碑があることに、改めて感激しました。今度、孫でも連れて、案内してやろうかなと思っています。久しぶりの皆様とご一緒の語りも対面ならではのだご味でした。企画に感謝しております。（猪股）

今回は、関内地区を中心に、横浜を発祥とするものを訪ね歩いてみました。いろいろと見たつもりが、実は、それらは横浜を発祥とするもののほんの一部で、それ以外にも近代水道・ガス事業・ビール醸造・新聞・西洋歯科・西洋理髪・洋裁・クリーニング業・塗装業・テニス・吹奏楽などが横浜を発祥地としています。現役時代もその後も、長く横浜に勤めていて、横浜を知ったつもりでいましたが、今回、初めて知ったものも多くありました。奥の深さに舌を巻きました。また、そのような時代の横浜にタイムスリップしたい気持ちにもなりました。（神田）

雨が連日続く中、この日だけは嘘のように五月晴れとなり、心地良い散策となりました。世話人（神田さん）の心がけがなせる技でしょうか。ほぼ60年も横浜に住んでいる身にとって、知識では知っていても実際の場所に出かけて行っていなかったことを痛感しました。しかも長年会社の行き帰りには電車ですぐそばを通過していたのです。しかし「横浜の初めて物語」はもっともっとあって、山手の方に行くと外人墓地、教会や古くて立派な建物など、異国情緒的な素敵な雰囲気味わえます。今度はそちらの方にある「横浜初めて物語」に行きましょう。（持田）

	<p>昔は、市電が縦横に走っており、市電からの景色を見ながら港町のエキゾチックな雰囲気を楽しんだものです。伊勢佐木町や馬車道のエリアは今より賑わっており横浜の中心でした。人出も多く、映画館も7～8軒はあったと思います。また、港に近い山下町、中華街、元町、そこから小高い丘を登ると外人墓地や山手の洋館にもよく行きました。神奈川県立歴史博物館の一階には資料室があり、大阪生まれの江戸の材木商、吉田勘兵衛が、幾多の困難を乗り越え、横浜村の河口を埋め立て新田開発した歴史や、黒船で来航したペリー提督に関する珍しい資料などがありました。ペリー提督は幕府との外交交渉や風俗文化を日本遠征記に克明に記述しています。特に、小型蒸気機関車や通信機などの贈り物への日本人の異常な好奇心と、米国に行こうと軍艦に乗りこむ者さえ現れた国民性を知り、日本は開国すれば必ず成功するであろうと述べています。なお、黒船と呼ばれた旗艦ミシシッピー号は帆船で、3,220排水トン、船体の両側にある水車のような車輪を蒸気機関で回して前後に進めるようになっていました。船体は黒く塗ってありましたが木製で、帆走時には水の抵抗を減らすために車輪を水面から上げました。（山崎）</p> <p>2. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月 宮本氏 7月 大谷氏 8月 松村氏 9月 神田氏 10月 見学会 11月 持田氏 12月 小林氏 1月 山崎氏 2月 猪股氏 3月 飯塚氏 4月 西村氏 5月 見学会
次回日程	<ul style="list-style-type: none"> 1. 日時 令和4年6月14日（火）15時～17時 2. 場所 かながわ県民センター 3. 技術課題 宮本氏から提供
次々回日程	<ul style="list-style-type: none"> 1. 日時 令和4年7月12日（火）15時～17時 2. 場所 かながわ県民センター 3. 技術課題 大谷氏から提供